

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 25日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏名	後藤一樹
研究課題	移動と社会関係の再編成過程に関するビジュアル・ナラティブ研究				
研究キーワード	映像社会学、オーラル・ヒストリー、撮影・録音、モビリティ、社会関係	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	11.住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>■四国遍路をフィールドに取り組んできた調査の成果を、共著『サバイバーの社会学——喪のある景色を読み解く』（ミネルヴァ書房、2021年）にまとめた。本稿では、肉親を亡くされた遍路（巡礼者）が四国を移動するなかで、地域住民や他の遍路と関わり合い、死者との関係性を再構築するプロセスが明らかになった。執筆にあたっては、調査中に撮りためた撮影（ビジュアル）データおよび録音（ナラティブ）データが分析され、記述に活用された。</p> <p>■ビジュアル・ナラティブ表現を用いた町おこし活動の成果や四国遍路でのこれまでの調査の成果について、メディア論の観点から『CUC View & Vision No.53』に発表した。</p> <p>■地域における社会関係の再編成について取材した映像作品が、コンテストに受賞した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>■後藤一樹「生きられる亡き人——時間の旅としての四国遍路」浜日出夫編著『サバイバーの社会学——喪のある景色を読み解く』（ミネルヴァ書房、2021年）第10章</p> <p>■後藤一樹「メディアとしてのライフ——〈死にゆく今〉を記録する」『CUC View & Vision No.53』（千葉商科大学経済研究所、2022年）</p> <p>【学会発表等】</p> <p>3. 主な経費</p> <p>ビジュアル・データおよびナラティブ・データ記録用に、カメラ等の機材を購入した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>■プロデューサー・監修を務めた映像作品『市川真間歩き ～女子大生の商店街グルメ日記～』で、市内観光素材コンテスト「準グランプリ 市川市観光協会賞」（市川市観光協会）受賞（2022年1月）</p> <p>■プロデューサー・監修を務めたドキュメンタリー『中華料理・萬来軒 ～コロナ時代の絆～』で、市内観光素材コンテスト「長編部門 金賞」（市川市観光協会）受賞（2022年1月）</p> <p style="text-align: right;">（本文は2ページ以内にまとめること）</p>					